

FREE

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

発行人: 源 真典(株式会社HEADLINE WEST) / 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089
編集・製作 株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6パルビゾン3 403号

笑
顔

晴
れ

SPECIAL INTERVIEW -1-

**EXILE
MATSU**

SPECIAL INTERVIEW -2-

片岡 明日香

OKAYAMA

**MOVE
UP**

岡山ムーブアップ

vol.4
SEPT-NOV 2013

TOKYO Free news
HEADLINE is good news
since 1982

HEADLINE
WEST
JAPAN
MOVE UP

日本を元気に！

EXILE MATSU

EXILE のパフォーマーとして活躍するかたわら、最近では役者として、多くのドラマや舞台に出演中の MATSU。そんな MATSU が松本利夫（MATSU from EXILE）として、主演する映画『晴れのち晴れ、ときどき晴れ』が11月16日に岡山先行公開される。岡山を舞台にした同作品のため、1カ月半、岡山でロケをして、大好きになったという MATSU が絶賛する岡山の魅力とは。また、今年いっぱい勇退を発表した HIRO や EXILE について、その胸の内を語る。

岡山の景色に日本の文化を感じた

『晴れのち晴れ、ときどき晴れ』は、岡山・瀬戸内市を舞台にしたオリジナル脚本の人情ドラマ。MATSU は不器用だが情に厚く、どこか憎めないという「男はつらいよ」シリーズの車寅次郎を彷彿とさせるキャラクターを、コミカルに演じる。また、劇中では、憧れのブルース・リーさんからの演武も披露している。

岡山での撮影は真夏に行われて、しかもロケが多かったので、結構大変でした。でも岡山って晴れの国って言われているように、天気の良い日が多くて、とても快適でした。映画のタイトルも『晴れのち晴れ』ですし、まさに岡山が舞台となった映画です。ロケは主に牛窓でやらせていただいたんですが、海が近いということもあり、絶景ポイントがたくさんあって、すごく素敵だなと思いましたね。瀬戸内海の手と島、もう岡山が大好きになりました。あと、オリーブ園の段々畑から見える景色がめちゃくちゃ

綺麗で、日本にもこんなに美しいところがあるんだなと改めて感じて、これはもう日本の文化だって思いました。

映画の内容は、エンターテインメントの要素がたっぷり入った人情味あふれる作品になっています。いきなり世界中を幸せにしたいというのは難しいと思いますが、身近な人、隣りにいる人に優しさを分け与えていくことから始めれば、世界中は幸せになるんじゃないかな。定虎という役を演じて、そんなふうに感じました。



一木広治 (ICHIKI KOJI)

株式会社ヘッドライン代表取締役社長 / 二十一世紀倶楽部理事事務局長 / ライオンズ日本財団評議員 / 株式会社 LDH エグゼクティブプロデューサー / 株式会社ローソン顧問 / 株式会社モブキャスト エグゼクティブプロデューサー / アンファー株式会社顧問 / 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会事業広報アドバイザー / 淑徳大学人文学科客員教授 (2014年4月～)

身近な人に優しさを分け与えていけば、
世界中は幸せになれる





LOVE・DREAM・HAPPINESS = EXILE 再確認

EXILE って、自分にとってはもちろん大切な場所です。夢を与えてくれる場所であり、表現者としての情熱を持たせてくれる所です。グループって愛がないと成立しません。その愛のあるグループの中で、エンターテインメントとして、自分たちができるパフォーマンスをして、たくさんの人に喜んでいただく。歌やダンスや芝居でみなさんに楽しんでいただく。そういう積み重ねをする度に、事務所（LDH）の意味である“LOVE、DREAM、HAPPINESS = EXILE” だって再確認します。原点はやっぱり HIRO さんに会ったこと。ほかのメンバーもそうですが、やはり HIRO さんとの出会いがなければ EXILE 自体が存在してないと思うので、本当に大きな意味を持つ出会いでしたね。



形だけじゃ伝わらない。 本質を感じる力が大切

僕は本来すごくネガティブなんです。自分の気持ちをポジティブに持っていくようにしないと、ついつい思考がネガティブの方向に行きがちで（笑）。僕なりのポジティブ思考は“ピークは今じゃないぞ”って思うこと。まだまだ先だぞ。今はまだ全然途中の段階なんだって思うと向上心がわいてくる。挑戦心じゃないですけど、こんなところで止まっちゃダメだって、自分を鼓舞する感じかな…。具体的な夢っていうのはまだ漠然としているんですけど、表現者で居続けたいなっていうのはあります。ダンスももちろんですが、今回映画をやらせていただいたように、芝居の仕事をさせていただくことも多く、そういうのも全部含めて、常に何かを表現していきたいですね。

HIROさんが今年いっばいで勇退されるので、自分がメンバーのお兄さんの立場というか、一番年齢が上なので、みんなの面倒をみななければならない立場になるんですけど、実はそういうのが苦手で（笑）。でも、そうやって甘えていた部分は、来年から気持ちを変えていかなきゃダメだとも思います。人として変わらないようにという部分と、変わらなきゃいけない部分があるなって、改めて最近感じています。あと、映画の中で、アクションシーンがあったんですけど、普段から体を動かしているから、大丈夫って思っていた部分があったんですけど、それは全然間違っていました（笑）。形はできても結局中身がないとダメなんですね。そのものの本質を理解してないと、見ていて面白

くない。それはうらじゃのシーンでも感じたことで、初めてうらじゃの振り付けの映像を見たときに、正直余裕だと思いました。これくらいならできるって思っていたんですけど、これまた振り付けを教えてもらった時に、なんかしっくりこなくて。やっぱり気持ちが入ってないと何をやってもダメなんだって実感しました。そこから、本物のうらじゃを映像で見て、先生からも歴史などいろいろ教えていただき、それを自分のなかで吸収して、そこからパフォーマンスとして表現するようにしたんです。大変でしたけど、それをやったから、映像を見たときに、気持ちが伝わってくるなって自分でも思えたんです。



岡山の人へ感謝とメッセージ

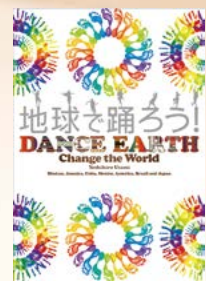
岡山は本当に街がきれいで、人柄もみなさん温かく、撮影にも協力的で、心の底から感謝しています。海の幸、山の幸、食べるものが全部おいしくて、本当に住んでみたいと思ったくらいです。でも撮影中に“EXILEのMATSUだ”って誰かが言った時“いやいや、岡山にいるわけない”ってスルーされることが何度かあって（笑）。あれは僕でした。また機会があったら、岡山に遊びに行きます！

MATSU'S POSITIVE ITEM

いつも前向きな MATSU の気持ちがアガるとっておきのポジティブアイテムを紹介

BOOK

『DANCE EARTH』
世界中を旅した気分にさせてくれます。
そして改めてダンスの素晴らしさを教
えてくれるし、とても共感できる本で
す。



MOVIE

『ショーシャンクの空に』
必死に生きようとする様に感動しまし
た。この映画を見ると自分の悩みなんて
ちっぽけだなと思わせてくれます。



MUSIC

『ヒューマンネイチャー／
マイケル・ジャクソン』
シンプルに大好きです。青春時代の思
い出の曲。ポジティブになれます。

MEANS

ポジティブになるための方法
ダンスやトレーニングをして汗を流す
こと。あとは何も考えない時間を作る
こと。

LOCATION

『海（自然）』
心が洗い流されます。



PRESENT

**MATSU のサイン入り CD を
読者 4 名にプレゼント！**

応募方法などの詳しい内
容は「OKAYAMA MOVE
UP」公式 facebook ペー
ジよりご覧下さい！

OKAYAMA MOVE UP

検索



『晴れのち晴れ、ときどき晴れ』
11月16日より岡山先行ロードショー

【キャスト】松本利夫（MATSU from EXILE）、宮崎香蓮、白石美帆 ほか

【監督】内片 輝 【脚本】八津弘幸 【配給】ネイキッド

【ストーリー】緒方定虎、37歳。アクションスターを目指し、16年前、故郷の牛窓を飛び出すも、今は無職。借金取りから追われ、辿り着いた故郷で、かつての幼なじみの妹、イズミ先生に一目惚れ！

先生に会いたい一心で定時制高校へ入学することに。そんな中、なんと自分の娘と名乗る17歳の少女、美羽が現れた！ こともあろうか、同じ高校に通うことになったトラと美羽。ひと癖もふた癖もあるクラスメイトに囲まれて、ぶつかり合いながらも、少しずつ二人の距離は近づいていくが…。



POSITIVE | 金言 | 「希望はいいものだ。多分最高のものだ。いいものは決して滅びない」（映画『ショーシャンクの空に』より）

OKAYAMA
MOVE UP!
日本を元気に

片岡明日香

ASUKA KATAOKA 女優

舞台やドラマで活躍中の女優・片岡明日香は、岡山県出身。実は彼女、「再現ドラマの女王」と呼ばれ、再現 VTR 界では、有名な女優でもある。視聴者の実体験を演じる事にやりがいを感じるという片岡が語る女優魂。

夢は映画女優と岡山県が全国の天気図にのること

映画女優になるために 岡山から上京

「岡山県総社市の出身です。場所的には…岡山市と倉敷市に隣接している割と地味な（笑）。生まれは倉敷なんですけど、育ったのは総社で、高校を卒業するまで、そこにいました。私の育ったところは、すごくのどかで、若干、人も町ものんびりしています。おおらかっていうかボーッとしてる。あ、それは私のことですが（笑）。温暖な気候で災害が少ないからなのかな。最近だと移住してくる人も多いみたいです。実家の目の前はずっと田んぼだったんですけど、ついにコンビニが立つことになって、すごくショックなんです。自然が大好きですし、思い出の土地ですから。東京に出てきた時も、緑のものがなくて、気持ちが落ち着かなくて、観葉植物をずっと置いていました。やっぱり私は田舎の人間なんだから、改めて思いますね（笑）。そんな大好きな田舎から、高校卒業を機に女優になるために上京しました。中学生くらいから、漠然と女優になりたいなっていうのがありました。親は真正面からは反対しませんでしたけど、たぶん葛藤はあったんじゃないでしょうか。最終的には賛成して、送り出してくれましたが、なんとなく反対じゃないけど…っていうのは感じていました。東京に出てきて、まず養成所に入って、その定期公演の舞台などに出演しながら、いろいろなオーディションを受けたりしていました。もともとテレビより舞台とか映画に興味があり、映画女優を目指していたので、そちらのほうのオーディションを中心に。桃井かおりさんとか、樹木希林さんのような、個性というか、自分を持っている人にすごく憧れます。自分を確立していて、他人に真似できないスタイルを持っているところがすごくかっこいいなって思いますね。今は再現ドラマもそうですが、普通のドラマとかバラエティーを主にやらせていただいています」

最近の岡山マイブームは “えびめし”

「岡山へは、年に2回ぐらい帰っています。震災とかがあって、いつ何があるか分からないと思ったので、なるべく帰れる時は帰りたいんですけど…。帰ったら、ずっと実家にいることが多いですね。家族との交流が一番大切ですから。だからあまり観光スポットとかは分からないんですけど、個人的にキレイだなと思うのが、鷺羽山からの夜景。あと、井倉洞を始めとする洞窟や鍾乳洞も興味があります。グルメではえびめし。何年か前に友達が勧めてくれて食べたんですけど、すごくおいしくて、リーズナブル。いわゆるB級グルメだと思うんですが、見た目は黒いピラフみたいで、サイドメニューにワンタンがついているんです。味はちょっと中華風なのかな？ この前テレビでもやっていたので、ブームはきてると思うんですけど。あとはひるぜん焼きそば。味噌味で、ちょっと変わった焼きそばですが、これがおいしい。これも確か、B級グルメの上位のほうに入っていたと思います。どちらも本当においしいので、ぜひ岡山に来たら食べてほしいですね」



芝居が好きという気持ちが自分を支えている

「ポジティブかネガティブかって言われると、両方ですね。人生いろいろありますから（笑）。再現ドラマの仲間でも、大体同年代の子は結婚して家庭を持っていますし、そういう憧れもありますけど、“再現ドラマの女王”と言われるまで、続

けてこられたのは、ある程度根性があるんじゃないかと（笑）。ちょっと悲しい話になるんですけど、この間も再現ドラマの仲間がくも膜下出血で急死して…。久しぶりにみんなと集まったんですけど“いつ何があるか分からないので、とりあえず今

を精いっぱい生きよう”って誓い合いました。私がポジティブになれるのは、応援してくれる人がいるからです。ファンの存在はすごく心強いし、自分一人だと、どうしてもネガティブになっちゃうので、“がんばって下さい”とか声をかけていただくと、元気になります。私の何かの作品を見て勇気づけられたとか聞くと、自分のやっていることも多少は人のためになっているのかなって。役者って、自分が一生懸命がんばったから、どうにかなるというものじゃなくて、オファーを待つのも仕事なんです。このドラマには私が必要だっと思っていただけるように、もちろんお仕事はすべて一生懸命させていただいてますが、あとはとにかく待つ。オーディションでも、全力を出しますが、受かるかどうかは待つしかない。だから待っている時間が一番きついです。ですから、仕事が続く時もありますし、スケジュールが空いてしまう時もある。だから、待っている時にもモチベーションを下げないようにということは気をつけています。本当に精神力が必要だなんて最近思いますね。その根底にはやっぱりお芝居が好きだっていう気持ちがあるから。それがなかったらとっくに辞めていると思います」



再現ドラマを極めたい

「再現ドラマって、誰の人生にも起こりうることであったりするので、共感して下さる方が多いんです。身近に感じて下さるというか…。やはり視聴者であったり、読者であったり、実際にその人たちが体験したことを元にして、ドラマを作っているわけですから、自分自身のこともそうですが、

家族や友達など、周りの人に起こったことと、似たようなケースっていうのはあるんですね。例えば、私がすごく苦労をした女性を演じたことがあるんですが、それがもう悲惨で、親の借金を全部抱えて、青春時代を投げ打って借金返してっていう役で。でもそれを入院してずっとふさぎこんでいた方が見ていて、自分も頑張らなきゃって言って下さったことがあったんです。その時に、この

役を演じて良かったなって思いましたし、再現ドラマって、そういうふうに普通に生きている人の人生に寄り添えて、何かを感じていただけるんだなって思いました。映画女優は夢ですけど、決してメジャーになりたいという意味じゃないんです。演じる事で何かの貢献になれるような、そんな女優になりたいので、再現ドラマを極めてみたいというのも夢のひとつです」

ASUKA'S POSITIVE ITEM

BOOK

「雑誌」 インテリアや洋服や旅行などを見ていると、自分が使ったり、着たり、行った気分になって上がる（笑）。でも多分一番は「台本」。このために、頑張っている。

TIME

「朝」 朝の光が好き。いろいろあっても、また始まるって思える。

OTHER

「うさぎのラブお」 生まれて初めて、一人で飼うペット。毎日癒されてます。

「ファンの人の応援」 くじけそうな時、ちゃんと見てくれる人がいると思うと勇気が出ます。

「家族や友達に会うこと」 素の自分に戻れるから。

MOVIE

「若いころに観た作品たち」 女優になりたいと思い立った初心を思い出す。

MUSIC

「高橋優」 最近好きなアーティストさん。

PLACE

「故郷の岡山」 帰ると気持ちがリセットできる。

FOOD

「なんでも」 “食べることは生きること”と母に教えられました。

岡山のファンにメッセージ

「岡山県って、私がいうのも何ですが、ちょっと地味な県なんです（笑）。全国の天気図でも広島と一緒にされて、陰に隠れているイメージ。でも地味なりに人間的におおらかで、その一方根性がある。私も今までいろいろ失敗しましたが、結構打たれ強いほうですし、内に秘めた思いがあるんじゃないかなって思っています。ですから、

表面的にもその秘めたものを出して、前に出て行ってほしいですね。全国の天気図に岡山がのるくらい頑張ってもらいたいです（笑）。あと、豊かな自然はできるだけ守ってほしい。岡山に帰るとホッとするのが、変わらぬ風景なので。家の前にコンビニができるのは、ほんとショックでしたから（笑）」



技術だけではなく、民謡の魅力を伝えたい

三味線奏者として活躍するかたわら、瞽女うたの研究、執筆など幅広く活動する月岡祐紀子さん。高校生のころから年上のお弟子さんに三味線を教え、現在約 40 人の弟子を持つ月岡さんが、教えられたこと、そして弟子に伝えたいこと。

瞽女さんとの出会い

「高校生の時に瞽女さんの事を知り、新潟の上越市に音源を借りに行き行って聞いたときにすごく感動したことをきっかけに、瞽女さんのことをいろいろ調べ始めました。声に迫力があり、地の底から聞こえてくるような唄と、素朴で味わいのある三味線の演奏に一瞬で惹きつけられたのです。そのころ新潟県の黒川村(当時)の老人ホームに瞽女さんがまだ 3 人いることが分かり、会いに行きました。しかし、皆さんご高齢でしたので、お稽古をつけてもらうという感じではなかったです。それから、年に 2～3 回は、自分なりに起こした譜面を持ってお訪ねし、聞いてもらったりしました。習うというより交流するという感じでしょうか。最後の瞽女といわれた

小林ハルさんが亡くなったのが、今から 8 年ぐらい前で、それまで 10 年間ぐらい交流を続けていました」

来た時に実りがあるようなお稽古を

「自分のお弟子さんたちには、民謡の魅力を少しでも伝えられればいいなと思っています。何百年も残ってきた民謡は、曲自体にすごく力があり、残ってきただけの魅力がありますから。技術に関しては、ちょっと甘いのかも知れませんが、特に東京で働いている人は、とんでもなくハードワークな人も多いし、住宅の事情で夜に大きな音を出せないということもあると思うので、練習不足をあまり責めません。練習してこないということをあまり怒ると、お稽古に来るのがすごく辛くなっちゃうんじゃないかって思うんです。今教えているお弟子さんたちは、プロになろうとして来ている人ではないので、ここに来た時に十分さらってもらえればいい。教え始めた当初は何とか練習をさせようと思っていましたが、定期的にお稽古をするのが難しい人もいますので、お稽古に来た時に、ある程度カバーできるようにしようと、意識が段々変わってきましたね。もちろんお稽古をすごくしてくる人のほうが、どんどん上手くなって行きますし、それはその人の努力の賜物ですから、うれしいです。でもやはりどうしてもいるんな事

情で、家でできない人もいますので、お稽古に来た時に実りがあるようにと思っています。あと、私が思っていることと、お弟子さんがやりたいことが違うこともあるので、どんな曲が好きなのかとか、どんな三味線を弾いてみたいのかなど、コミュニケーションを取ることを心がけています」

子どもたちに民謡の魅力を伝えたい

「最近、演奏するプロの側が、民謡の魅力を伝える場がないし、伝え方がすごく下手になっていると感じます。民謡の魅力を上手く伝えられれば、もっと子どもたちが興味を持ってくれると思うんですが…。阿波踊りとかもあれだけ盛り上がって、子どもたちも参加しているし、うまく伝えればきっと民謡にも興味を持ってもらえるんじゃないでしょうか。民謡って、曲によってはいつからあるか分からないくらい、長い時を経て伝わってきた素晴らしいものです。歌詞も考えて作られたというより、生活の中から自然に出て、それが削られて磨かれて残ってきたものですし、メロディーもその地域ごとに雰囲気違って味わいがあって、魅力が濃い。そんな民謡の魅力をもっと上手く伝えて次の時代にも残していければと思います」



©toshiyuki hiramatsu

月岡祐紀子（つきおか・ゆきこ） 1976 年 5 月 17 日東京都目黒区生まれ。第 44 期 NHK 邦楽技能者育成会修了。NHK 東京放送児童劇団に 10 年間在籍。幼いころより父、月岡翁笙から民謡を学ぶ。三味線を本條秀太郎に師事。和楽器のオーケストラグループ「むつのを」メンバー。6 歳で初舞台を踏み、現在は民謡の演奏会、瞽女唄のソロコンサート、他の若手奏者とのライブなど、幅広く活動中。大学卒業時、瞽女の旅を追体験しようと、三味線を奉納演奏しながらの四国八十八カ所歩き遍路に挑戦。翌年も歩き遍路を行い、三味線、尺八、箏、二胡、打楽器、唄での合奏曲「遍路組曲」を作曲した。その様子が、ドキュメンタリー番組「娘三味線へんろ旅」（南海放送制作／ナレーション桃井かおり氏）として全国放送され、放送文化基金賞の出演者賞を受賞。さらに作家・早坂暁氏の紹介により、二回の旅を書き綴った旅日記が朝日新聞四国版、関西版に 1 年間（2000 年 5 月～翌 01 年 5 月）連載され、この記事に加筆したものが「平成娘巡礼記」（文春新書）として刊行された。「遍路組曲」は CD 化もされ、東芝 EMI より発売。現在は 3 回目の歩き遍路を行うほか、遍路をテーマとしたシンポジウムや講演などにも多く招かれ、演奏している。来年 3 月には、毎年岡山の美観地区で開催されている『倉敷音楽祭』に招待され演奏予定。

Be POSITIVE

Culture/Item/Entertainment and more

人に元気を与える人になるには、自分自身が元気でハッピーじゃなきゃ。ムカつくこと、悲しいこと、情けないこと、失敗すること、心が痛くなる出来事…。毎日毎日嫌なことはあるけど、ほんの少し見方を変えて見ることで、気持ちは前向きに立て直せるはず。そんな時、そっと背中を押してくれるさまざまなモノ。友達、家族、ペットなど心許せるモノをはじめ、楽しい映画、ノリノリの音楽、感動的な本など、心に響くものを誰でもひとつ持っている。また、それだけではなく、髪形を変えたり、旅行に行ったり、美味しいものを食べたり、やってみたかった習い事に挑戦したり、自分を変えてみることで、人生が楽しくなる方法もたくさんあるはず。そんなポジティブになれる最強のカルチャーやアイテムやエンターテインメントなどをご紹介します。あなたの気持ちがハッピーになるようなモノに出会えますように。

GOODS

ハロウィン気分を盛り上げろ！

ユニークでかわいい

ハロウィントートバッグ

アメリカの人気ファッションブ



ランドランズエンドは、ハロウィン仕様のトートバッグを発売中。定番商品としても人気のトートの丈夫なコットンキャンバス地には、ハロウィンらしいジャコランタン柄のほか、ウィッチやスケルトン、スパイダーといったユニークな柄がアプリケで施されている。持ち歩きはもちろん、家で使うお菓子入れや小物ケースとしても使用できるほか、インテリアとしても楽しめる。また、裏面には名前やイニシャルを刺しゅうできるので、プレゼントとしても最適だ。季節のイベントに合わせたグッズを持つと、それだけで気分が盛り上がるというもの。このトートバッグを持っていれば、今年のハロウィンパーティーの主役になれること間違いなし！

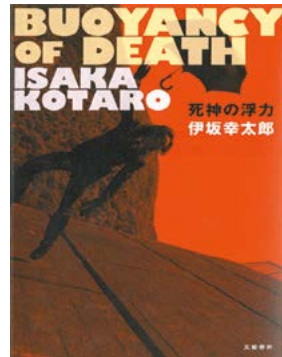
【価格】2980 円【問い合わせ】日本ランズエンド TEL：0120-554-774【URL】landsend.co.jp

BOOK

『死神の浮力』伊坂幸太郎

あの死神が帰ってきた！

100 万部を突破し、ドラマや映画化もされた伊坂幸太郎の『死神の精度』の続編が8年ぶりに発売された。調査部から指定された対象者と接触し、1 週間の調査後、その死を“可”とするか“見送り”とするかを判断する死神。可と判断されれば、その人物は8日後に死亡する。前作は6つの短編からなっていたが、今回はあの死神“千葉”が調査対象の夫婦と向き合った7日間を長編で描く。クールでちょっとズレたキャラクターの千葉は、人間の感情や行動に興味がなく、言葉の裏を読むことができない。それゆえ、淡々と仕事をこなす事をモットーとしているが、そのとぼけたキャラクターは、対象者にとって救いになることも。音楽が大好きで渋滞を憎み、苗字が町の名前で、過去のことを見てきたように話す。そんな人が近くに現れたら、それは死神かも!? 死を意識することで、逆に毎日楽しく過ごしたいと思える本。死ぬまで生きるのが人生だから。



【定価】1650 円（税別）【発行】文藝春秋

FOOD

U-1 グランプリで売上日本一

「倉敷うどん ぶっかけ ふるいち」の「ぶっかけうどん」

日本全国のうどんが集結し“うどん日本一”の栄冠を競う、2 日間限定のフードイベント「うどん日本一決定選手権 U-1 グランプリ 2013」が8月24、25 日に東京で開催された。今年は、北は北海道、南は長崎まで、全国 24 店舗が出店。



ご当地フードが集まるイベントは多々あるが、その中でもこのイベントが高い人気を誇るのは、やはり“うどん”に特化したユニークさと、メニューのバラエティーの豊かさ。麺ひとつをとっても、食感から形、素材まで、それぞれのうどんごとにまったく異なる。もちろん、トッピングやダシは千差万別。うどん、という一般的なイメージでくくることのできない、奥深さとバラエティーの豊かさが、多くの人を引きつけているのだ。

同イベントでは、“うどん日本一”を決めるコンテストも同時開催。集計は「一般財団法人うどんミュージアム」監修のもと、売上を競う売上部門と来場者の投票による評価部門の2 部門で行われ、それぞれの“日本一”が決定。岡山代表の岡山県「倉敷うどん ぶっかけ ふるいち」の「ぶっかけうどん」は、売上部門で第1 位、評価



部門で3 位を獲得した。岡山の名物といえば、きびだんご、桃、ばら寿司、ままかりなどのイメージが強いが、最近では、えびめしやひるぜん焼きそばなどのB 級グルメも広く知られるようになってきた。そこに来て、今回の W 受賞でうどんの知名度がグンとアップするのは確実。新たな岡山のソウルフードの誕生だ。





EXILE NAOTO、NAOKI & 三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE 岩手県野田村で『夢の課外授業』を開催

著名人が、夢を持って挑戦することの大切さを子どもたちに伝える「夢の課外授業」が7月27日、岩手県野田村野田村立野田中学校で開催された。今回サプライズ講師として訪問したのは、国民的ダンス&ヴォーカルグループEXILEのNAOTOとNAOKI。さらに2人もメンバーであるEXILEの想い・信念を受け継ぐダンス&ヴォーカルグループ・三代目 J Soul Brothersのメンバー全員が参加し、7名が先生となりダンスレッスンを行った。

この日参加した生徒は野田中学校の総勢約110名。レッスン曲は、EXILEを代表する曲『Rising Sun』。象徴的なサビのダンスが難しい曲なのだが、メンバーを始め、インストラクターたちが生徒たちの間に入り、直接アドバイスをしたり、実際に踊って見せたりすると生徒たちはみるみる上達。さらに限られたレッスン時間の中で、全員が踊ることができるよう『Rising Sun 野田中 ver』と題したオリジナルの振付を交

えながらレッスンを行った。

レッスン終了後の懇親の時間では、EXILEのパフォーマーでもあり、三代目 J Soul Brothersのリーダーを務めるNAOTOが「今日は“復興への想い”や“野田村をもっと元気にしたい”という、みんなの“想い”がダンスを通じて感じられました。これからどんな事をするときも、みんなの持っている“想い”を大事にし、さまざまなことを行ってほしいと思います」とエールを贈った。

さらにこの日は、三代目 J Soul Brothersのメンバー全員が揃っているということもあり、生徒たちからの「みなさんの歌が聴きたい!」というリクエストにこたえ、ミニライブを開催。『花火』『Go my way』の2曲を披露、プロの歌声、パ

フォーマンスに会場は大盛り上がりとなった。

ミニライブの後、「メンバーの皆さんにお礼の気持ちをこめて」ということで、今度は中学校の生徒たちが「ソーラン節」を披露。キレイのある踊りにメンバー全員は圧倒され、踊りの後は生徒たちに大きな拍手が贈られた。

その後、メンバーは野田村にある『ライジングサンスタジアム』という総合運動公園野球場に移動。EXILEの代表曲『Rising Sun』と偶然同じ名称の球場だが、実は今回メンバーが岩手県野田村に訪れるきっかけにもなった場所だ。最後は、会場に集まった村民に笑顔で見送られ野田村を後にした。

「夢の課外授業」とは

二十一世紀倶楽部が行う「夢の課外授業」は、子どもたちに夢を持つことや、挑戦する気持ちを大切にしてもらうことを目的に行われているプロジェクト。ミュージシャンやタレント、文化人らが先生となって全国各地の小学校を訪れ、授業を行うというもの。授業の内容は、担当の先生によって異なるが、根底に流れるテーマは「夢」。夢を持つことの大切さと同時にその実現の難しさも伝える。2000年にスタート。



1

今の職業を目指すようになったきっかけ

昔から縫うことが好きで、小さいころから自分で服を作ったりしていました。また雑貨も好きで、そこからそういう仕事がないかなということで、高校も服飾系の学科に進み、専門学校に入ってから、改めて縫うことが好きだと思い、この道に進むことを決めました。

2

この仕事にやりがいを感じる時

実際にお店に立っていた時期があるんですけど、そこで自分の商品が売れたときですね。

3

尊敬している人と理由

社長ですね。社長って自分の中では、どっしりして何もしないイメージなんですけど（笑）、弊社の社長は常に仕事をしていて、どんなこともお手本でいてくれます。見つけるのも大変なぐらい動き回っている人です（笑）。

4

今の仕事をする中で学んだ最も大事な事は？

自分の好きなものを作るのではなく、“どんな商品が売れるか”“どんな商品がお客様に喜んでいただけるか”を考えることです。いろいろな人がいるので、実際にお店に立ってみて、お客様の声を聞くことは大事だと学びました。

5

今後の夢は？

自分の店を持って、そこで自分が作った雑貨を売りたいです。

6

今一番作ってみたいものは？

帽子を作ってみたいです！ まだ帽子は作ったことがなくて。やっぱり帽子って作るのが少し難しいんです。ラフ絵は書いているんですけど、まだ製作には進めていないので、次はぜひ作りたいです！

7

仕事をする中で、大切にしていることは何ですか？

お客さんに喜んでもらうものを作りたいので、何事も雑にしない！ということを心がけています。例えばデニム1本を作るにしても、糸をつないでしまうと、どうしても汚くなるので、なるべく1本の糸で縫うということを気をつけています。また、自分が同じ商品を持つなら、ということを考えて毎回作っています。

OKAYAMA

三宅 小津瑛（パタンナー） Kozue Miyake

1990年8月25日生まれ。岡山県都窪郡出身。倉敷ファッションカレッジ ファッションスペシャリスト学科卒業。その後、有限会社美東に入社。店舗販売経験も行い、現在は店舗販売も兼務しながら、デニム作りを行っている。



JEANZOO デニムに手作りの動物たちの加工を施したオリジナル雑貨、Tシャツなどがあります！子どもから大人まで楽しめる動物園のようなお店です。倉敷市児島味野 2-2-39 営業時間：10:00～18:00 定休日：水曜日 HP：http://jeanzoo.com/

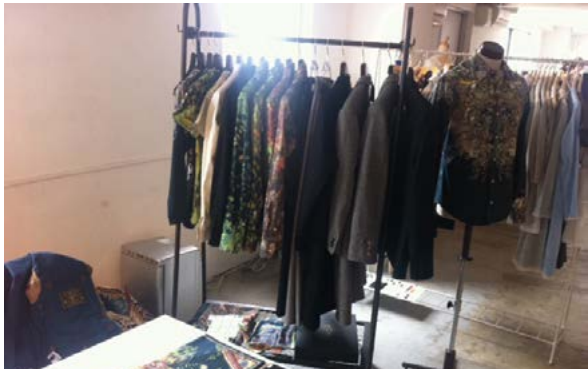
POSITIVE | 金言 | 「私は流れに逆らって泳ぐことで強くなったの」(ココ・シャネル)



TOKYO

谷澤 諒（デザイナー）
Tanizawa Ryo

1988 年 4 月 24 日生まれ。静岡県出身。
エスモード・ジャポン東京校メンズ専攻卒業後、2010 年からオーダーメイドでのシャツ製作を開始。2011 年に impro ARLEccHINO(インプロ アルレッキーノ)というブランド名でメンズ服を中心とした製作を開始。



1 今の職業を目指すようになったきっかけ

昔から何かを作るという事が好きだったので、漠然としたイメージで何かをデザインする仕事に就きたいとは思っていました。正直、昔は周りの友達と比べてもお洒落に興味関心がありませんでした。それでも自分の進路を考えるようになった時に 1 番最初にデザインするというのがイメージできたものが服でした。

2 この仕事にやりがいを感じる時

頭に中にあるイメージを形にしていくために必要な生地だったりボタンなどの付属品を見つける作業は楽しくやりがいがあります。しかし一番のやりがいを感じる瞬間は自分がコレだと思っていたデザインの物を実際にお客様が手にとってくれたり気に入って着てくれているのを見たときですね。

3 尊敬している人と理由

父親ですね。正直、父とは業種も違うので仕事をする父というイメージがわかなかったのですが、自分が仕事をし始めてお金を稼ぐという状態になったときに父の偉大さを感じました。学生の時は勝手に当たり前だと思っていましたが今こうしてやりたいと思っていることで仕事ができるのは父のおかげだと思っています。

4 今後の夢は？

たくさんありすぎてここで言い切るのは難しいですね。ただこの先、服だけではなくもっと色々なものをデザイン、製作していけたらと思います。

5 今一番作ってみたいものは？

自分の店そのものを丸々作ってみたいですね。外観の細かいところから内装や自分の作業場、すべてをトータルでデザインしたものを自分の手で作れたら興奮しますね。

6 コレだけは負けない負けたくないこと

人の肌に対する色彩のバランス感覚は大切にしています。服や生地単体としての色味や柄だけではなく実際に着た時に人がどう見えるのか、服がどう見えるのかというのを常に意識しています。

撮影：蔦野裕 取材協力：中目黒・セルビエサンティール